New Topics

自分らしく

友愛会だより

Yuuaikaidayori

VOL.48 September 2020
医療法人社団 友愛会
社会福祉法人 友愛会：広報誌

友愛会
https://yuuaikai-gifu.or.jp/

岩砂病院・岩砂マタニティ 受付時間のご案内

休診日：日祝日、12月31日～1月3日、8月15日

内　科	月	火	水	木	金	土	受付時間
午前診	○	○	○	○	○	●	9：00～11：30
午後診	◎	—	◎	—	◎	—	14：00～16：00
夕　診	●	●	●	●	●	—	16：00～18：00

予約ダイヤル 058-231-2631

○内科診察（事前予約も可能）　●内科診察（予約不可）　◎完全予約制
（予約受付時間／13:00～17:00）※詳細は受付へお問い合わせください。

小児科	月	火	水	木	金	土	受付時間
午前診	—	●	◎	—	●	◎	9：00～11：30
午後診	○	●	○/●	○	○/●	○	14：00～16：00
夕　診	—	○	—	—	—	—	15：00～18：00

お問い合わせダイヤル 058-231-2631

○小児科診察　●予防接種　◎ぷあぷ外来
（予約受付時間／9：00～12：00）※詳細は受付へお問い合わせください。

婦人科	月	火	水	木	金	土	受付時間
午前診	◎	◎/△	◎/○	◎/○	◎	○	9：00～11：30
午後診	○	○/△	△	△	△	○	13：00～14：30（月～金） 14：00～15：30（土）
夕　診	○	—	○	—	○	—	16：00～18：00

婦人科予約専用ダイヤル 058-232-1777

◎女性医師（学会・出張等で変更になる場合があります。）
△検診等（一般の診察はおこないません。）
（予約受付時間／9：00～17：00）※詳細は婦人科受付へお問い合わせください。

産　科	月	火	水	木	金	土	診察時間
午前診	○	○	○	○	○	○	9:00～12:00 受付時間9:00～11:30
午後診	○	○	—	—	—	○	13:00～16:00（月火）受付時間13:00～15:30 14:00～17:00（土）受付時間14:00～16:30
夕　診	—	○	—	○	○ 16:00～	—	17:00～19:30 受付時間17:00～19:00

予約専用ダイヤル 0120-038183（おさんはいわさ）

（予約受付時間／9：00～17：00）※詳細は産科受付へお問い合わせください。
産科専用玄関が病院西側にあります。
内科等他科の患者さんと接触がないよう配置されております。

コロナ禍で行なった「職員への慰労」と「地域支援」の取り組み

5月下旬から6月中旬の合計4回にわたり、職員へ昼食にお弁当を届ける取り組みを行ないました。この取り組みは法人のビジョンである「地産・地育・共創・友愛」を実感できるものとなりました。

新型コロナウイルスが私たちの身近に迫ってきたのは、3月中旬でした。当法人は地域の医療介護事業を継続できるよう、さまざまな感染対策を行なってきました。職員は、日常業務に加えて院内や施設内感染防止業務も行ない、公私ともに緊張が続く状況でした。

このような状況の中、理事長から「がんばってくれている職員に何か還元できることはないか」との発言があり、「お昼にお弁当を配布すると家事の負担軽減になるのでは」「外出自粛で経営に影響を受けている地元の飲食店のお弁当を注文してみては」「協力してくれる職員を集めてみよう」などのアイデアから、この取り組みが産まれました。これに賛同し協力してくれた総勢34名の職員と、注文を快く引き受けてくださった近隣の飲食店の皆さんの協力により、この取り組みは大きく育ち、5月下旬、近隣の15店舗からテイクアウト弁当を注文し職員が法人内の各施設へ配達する取り組みがスタートしました。4回にわたり合計1,400食を超えるお弁当を職員に届けました。

職員からは「時間と気持ちのゆとりができた。子供と過ごす時間がもてた」「知らなかったお店を知ることができた。ぜひ利用したい」、協力いただいた飲食店さんからは「以前のような営業には戻っておらず注文はありがたい」「楽しくお弁当を作らせてもらいました」「これからも飲食を通して参加できる取り組みがあれば一緒に」といった声をいただき、地域の飲食店さんとの新たな交流を創ることができました。

この取り組みを通し、ふさぎこみがちな職員に笑顔を届けられ、地域で互いに支えあうというたくさんの想いにふれることができました。温かさを感じる、そんな取り組みでした。

編集後記

近年、全国的に多くの災害が発生し、ニュースを通じ被害状況を目にする機会が多くあります。やはり日頃からの備えが大切であると痛感しています。次回、友愛会だよりでは法人が取り組む災害対策BCP（事業継続計画）についてご紹介致します。

友愛会　検索

どう生(逝)きるかい(会)

～〝自分らしく〟人生を歩んでいくため～

長良医療センターと高木医院、そして地域包括支援センターとの共催で年に2回開催しています。昔は自宅で家族を看取ることが身近でしたが、現在はそのような機会はほとんどありません。そのため、私たちにとって“どう生(逝)きるか”が分かりづらいものとなってしまいました。自分らしい生き方、自分らしい人生の締めくくり方を、地域の方々がそれぞれで考えることができるきっかけとなるよう、毎回さまざまなテーマで開催しています。

過去の講演テーマ

第1回 2016.11.27
- 誰もが住み慣れた地域で暮らすために
- 「自分らしさ」について

第2回 2017.5.28
- 在宅医のメモ
- 続「自分らしさ」について

第3回 2017.12.17
- 三平流「 生きかた、逝きかた 」
- 高齢者らしさ ～ 認知症から学ぶ ～

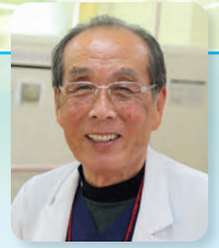
第4回 2018.5.27
- 住民が主役となって考える「生き方 逝き方」～長野県佐久市内山地区の取り組み～
- わたしって認知症？

第5回 2018.10.28
- ピンピンコロリを願うあなたへ
- ぼけたって大丈夫 ～地域の支えで～

第6回 2019.5.26
- 老いとは？
- 健老・賢老を目指して

第7回 2019.10.13
- 小笠原流　生きかた・逝きかた ～なんとめでたい ご臨終～
- 「最期は家で」を支えた医療・介護のチームケア

どう生(逝)きるかい(会)



岩砂病院・岩砂マタニティ 顧問 **岩砂 三平**

私は現在73歳。人生を振り返ってみると、老化ということなどは自分には関係がないと思っていた頃は遙か昔になり、人生の終末が見えてくるようになりました。その思いと同時に残った人生をいかに有意義に、大切に生きて行くべきかとの思いが、私にとってもどんどん重要な問題となってまいりました。また職業柄、多くの方々から特に人生の終末・最期をどのように迎えたいかを伺い、お話しする機会があり、このような思いは、私自身だけでなく多くの高齢者の皆さまも同様に思われ、考えられていらっしゃると実感したものです。私も若かった時は、冗談話の様に伺っていましたが…

特に人生の終末・最期をどう迎えたいかという話の最後には、その都度「宜しく頼みます」と何度も何度もお願いされたことを思い出します。確かに残った人生をいかに過ごすかは、自分自身で何とか出来るかもしれませんが、終末・最期の迎え方は自分では何ともしがたいことが多く、我々医師に託されることはよく解ります。しかし、実際には連れ合いや家族の強い思いもあり、人生の終末・最期を迎える方が、自分が思い描いていた様なものとは程遠い経過で人生を終える方々をたくさん看取って参りました。その都度、生前はこのような終末・最期を望んでいらっしゃらなかったのにと思うと同時に、もっと何かをしてあげられなかったのか、もっと御本人の気持ちを残った人たちに伝えられなかったのかと自問自答することが多くありました。

このような思いもあり残った人生の過ごし方・人生の終末・最期の迎え方を皆さんと一緒に考える機会を作りたいと考え「どう生(逝)きるかい(会)」を4年前に長良医療センター前院長：山田堅一先生　高木医院院長：高木寛治先生と三人で立ち上げ、長良医療センター地域医療連携室、岐阜市地域包括支援センターの皆様らのご協力の下で年2回(春・秋)に北部コミュニティセンターにて講師をお招きしこの会を開いています。気楽な集まりですので地域の皆様には是非一度参加していただき、一緒に考え、参考にしていただければ幸いと考えています。多くの皆様の参加をスタッフ一同お待ちしております。

過去の講演 参加者の声

- 健康長寿をのばすヒントを頂き、ありがとうございました。
- 先生方の良いお話をうかがう事が出来て感謝いたしております。
- 70歳になり、これで終わりではなく、これから何をしたらいいか良くわかりました。
- 地元の先生方を知りたくて参加しました。お話しも楽しく勉強になりました。
- もうすぐ80になる父へ、夫へも伝えたいと思います。
- 今後、年齢を重ねた時にもう一度聞きたいと思います。
- 今日のお話を参考にがんばります。
- 専門的な話もありますが、楽しい。
- 毎日の生活習慣を改めて考え直す機会になりました。

New Topics

回復期リハビリテーション病棟

看護師による退院前・退院後訪問を行っています

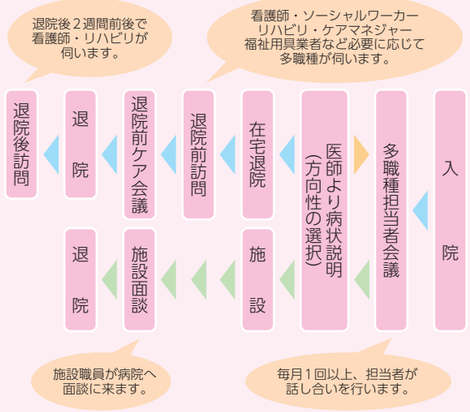
回復期リハビリテーション病棟とは、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施する病棟です。当病棟の約8割は運動麻痺や認知機能障害などの後遺症を抱えた脳血管疾患の患者さんです。そのような患者さんがご自宅で生活するためには、自宅環境の整備や、介護保険サービスの利用、地域の方々との連携が不可欠です。入院中にこれらの準備を整えることで、患者さんやご家族が安心、安全に自宅へ退院し生活できるよう、リハビリスタッフやソーシャルワーカーが患者さんと一緒に自宅訪問を行っています（退院前訪問）。退院前訪問によって、自宅生活を想定することができ、リハビリ内容の見直しや適切なアドバイスに繋がっています。必要に応じて、ケアマネジャーや福祉用具業者なども同行し、サービスの調整を行うこともあります。

また昨年より新たな試みとして、退院後訪問を始めました。退院後訪問は、退院後2週間前後に訪問します。退院後に何か問題が起こっていれば、それを明らかにし、解決策を一緒に考えます。実施後は患者さんやご家族から「見てもらえて安心した」「困ったことが聞けて助かった」など好評価を頂いています。私達看護師も、実際の退院後の生活を自分の目で確認することで、今後の支援に役立てることができています。これからもその人らしい生活をサポートできることを目指して取り組んで行きたいと思います。

理学療法士より一言

回復期リハビリテーションでは多職種と協力して、様々な疾患をかかえた患者さんの在宅復帰や社会復帰を目指します。入院の早い段階からその方の暮らしや住宅環境を確認して環境や生活様式に応じた動作練習や環境の調整を丁寧に行います。

退院後訪問では、退院後にご自宅での生活動作を当時の担当者が実際に現地で確認することにより、安心・安全な在宅生活が送れるように、チーム一体となってお手伝いさせて頂いております。



岩砂訪問看護ステーション

みなさまの在宅生活を支えます!!

岩砂訪問看護ステーションは、看護師10名、リハビリスタッフ7名、事務員1名の総勢18名で、長良・常磐・岩野田地区を中心に約200名の利用者様の在宅生活を、関係職種と協力しあって、一人ひとりに寄り添って支援をしています。訪問看護の対象者は、地域で暮らす赤ちゃんから高齢者まで全ての年代の神経疾患、脳血管疾患、内部疾患などの様々な疾患をお持ちの方です。最近は、医療依存度の高い方も積極的に受け入れており、病状観察だけでなく、身体の清潔ケア、床ずれの処置、医療機器の管理、リハビリなどを提供し、24時間365日体制で利用者さんに安心と笑顔を届けています。特に重度の障害を持ったお子さんの訪問看護のニーズは高いものの、受け皿となる訪問看護ステーションが不足しているといわれているなか、現在8名のお子様の在宅生活をサポートしています。また、近年、在宅での終末期ケアや看取りを希望される方が増えており、当ステーションでも在宅生活で利用者さんと家族との時間を大切にした終末期を迎えることができるようにお手伝いしています。

令和2年2月8日・15日・16日の三日間に、精神疾患の利用者さんへの訪問要件である「精神訪問看護研修会」に看護師3名、作業療法士1名が受講をしてきました。精神訪問看護とは、精神疾患をお持ちの方や心のケアを必要とされる方に、精神疾患に最も重要な内服薬の管理や助言、リハビリなどで在宅生活を支援させていただくことです。今回の受講終了で、看護師全員と作業療法士の訪問が可能となりました。近年、精神科医療は、「入院から地域中心へ」と移行が進んでおり、地域で安心して生活を送るうえで訪問看護の役割は大きいと考えています。今後も家庭や地域社会で安心、安全、快適な生活を送っていただけるようにご支援させていただきたいと思います。

介護老人保健施設

山県グリーンポート

施設でのリハビリテーション科の役割

私たちリハビリテーション科では、理学療法士3名、作業療法士5名、言語聴覚士2名(非常勤)の計10名が勤務し、利用者さんが再びご自宅で生活できるように、またその人らしい生活が営めるように支援しています。対象は要支援から要介護認定をお持ちの方々で、山県グリーンポートに入所している利用者さん、在宅生活でリハビリの支援を必要とされているデイケア・訪問リハ・ショートステイの利用者さんです。全ての方々に共通して言えることは「利用者さんが住み慣れた町で長く暮らしていくための支援を精一杯提供する」ことです。

そのために、日常生活に必要な全身の筋力訓練やバランス訓練はもちろんですが、利用者さん一人ひとりがその人らしい生活が送れるように、自立支援に向けた働きかけを心がけています。高齢者は運動を実施しないことで全身の筋力が低下し、それに加えてバランス能力も低下してしまいます。これらは体の機能の低下や、生活上での不活動の悪循環を生じさせてしまいます。それを防ぐためにも私たちは利用者さんやそのご家族に対して、運動を続けることの必要性を知っていただく働きかけや、一人ひとりにあった運動の種類や頻度を利用者さんと一緒に考え、日常生活の中で運動を継続していただけるように提供しています。また、ご自宅の敷居の状況や玄関の段差の高さなどの家屋環境の確認もおこない、転倒が起こらないように安全な環境設定を提供し、その人らしい生活が安全におこなえるよう助言もおこなっています。更に、体の機能維持のみではなく、以前より楽しみにされていた趣味活動の再獲得を目指し、園芸活動やグラウンドゴルフなども提供しています。

加えて、山県市の事業の一環として、地域の方たちに対して「フレイルについて」「転倒予防について」や「運動の必要性とその実践方法」をお伝えし、健康に過ごしていただくために予防支援活動にも積極的に取り組んでいます。

今回の記事で興味を持たれた方は、一度、私たちのリハビリテーションの見学にきていただければと思います。

社会福祉法人 友愛会 特別養護老人ホーム

山県グリーンビレッジ

生活を支援します

ご本人が大切にしてきた生活での思いや習慣に配慮し、介護が必要になっても、できるだけ自分らしい生活を送ることができるよう支援をしています。食事やトイレなど介護の必要な部分はサポートしながら、スタッフが何でもお手伝いをする介護ではなく、ご本人が今できることを活かす支援を大切にしています。

単調になりがちな生活に張りができるように、楽しみの場を設けています。午前中の喫茶コーナーでは利用者さん同士でコーヒーを楽しみ、話に花を咲かせている様子がいつも見られます。レクリエーションや行事なども生活のいいアクセントになっているのではないでしょうか。

山県グリーンビレッジでの「看取り介護」は日常生活支援の延長です。慣れ親しんだ施設で最期を迎えられるよう嘱託医師、看護職員、介護職員などが協働して、随時本人や家族に十分な説明・同意を得ながら行います。最期を迎えられた利用者さんは、馴染みの職員や仲良しだった利用者さんに見送られ正面玄関からお帰りになります。いつでもその人らしく過ごせるような支援に努めていきます。

社会福祉法人 友愛会 ショートステイ

長良グリーンビレッジ

素敵な笑顔に囲まれて

長良グリーンビレッジでは、日々のレクリエーションや季節ごとの外出や行事をとても大切にしています。

塗り絵という聴き慣れたものでも「ここで初めてやった。」と、以来自宅でも続けておられる方がいます。

紅葉見学に三田洞弘法へ出かけた時は、ある方が「こんなに近くで紅葉を見たのは初めてや。」と話して下さいました。

節分祭の玉入れでは、普段歩けないのに思わず立ち上がって籠に近づこうとされる方もいました。

利用者のみなさんがふと話される言葉や、あふれんばかりの笑顔がとても素敵で、それが職員の励みになっています。

これからも、たくさんの笑顔に出会えるようにいろいろな企画をしていきます。